

今年の今福線研究分科会

村上 英明

1、はじめに

満7年を越えた我々の今福線研究分科会の活動は、この一年間にも大きく展開した。

我々の活動から副次的に発生したであろうと思われる展開にも触れて、それらをまとめて振り返ってみることにしたい。

2、全国未成線サミットへの参加

奈良県の五新線へは、当研究分科会から2年前に現地見学に行った時から五條市の方々と交流ができ、昨年夏には五條市（NPO 法人五新線再生推進会議）から今福線見学に9名の方々がおいでになったことは既に報告したとおりである。

今年3月4～5日には、その五條市で「国土政策フォーラム in 五條」と銘うって第1回目の全国未成線サミットが開催された。

参加者数は250名と発表されたが、この催しに当研究分科会からは、嘉藤、河野、永田、村上、渡辺、和田の6名が参加した。浜田市役所から1名、それに島根県立大学の西藤真一先生がご家族をお連れになって参加された。

初日4日のフォーラムのパネルディスカッションでは、我々の研究分科会を代表して和田 浩さんにパネラーとして今福線を発表していただいた。

フォーラムに続いて五新線の現地見学、翌5日には木レールというイベントが開催されて家族連れで1000人の参加があった。これは五新線の遺構上に小さなレールを延長500mに渡って設置し、その上をそれぞれが持参したミニ列車を走らせるイベント（持参していない人はスタート地点で数百円からミニ列車



写真-1、サミットのパネルディスカッション



写真-2、パネラーの和田さん

や乾電池を買うこともできた)で、既に第4回目の開催とのことで、地元ではかなり知れ渡り、親しまれている催しとなっていた。

我々も会場で初めて会った家族や子供たちと一緒に思わず歓声を上げながら大いに楽しんだ。

完成することのなかった未成線の遺構を様々な方法で地域おこしに利用している各地の状況を知り、非常に参考になった。

次回の全国未成線サミットは、福岡県田川郡赤村で開催されることが決まった。



写真-3、木レール会場の盛況

3、現地調査

我が研究分科会の今年の現地調査は、11月4～5日に行った。

参加者は地元の石本さんを含めて13名であった。

3-1、ドローンによる撮影

今年はドローンを飛ばし要所で上空からの写真と動画を撮影した。

撮影された画像は、折しも周囲の紅葉が始まる中に今福線の初めて見る上空からの姿を4K画像で精細に映し出しており、一同からは感嘆の声があがった。

次回(2018年1月)の島根県技術士会新年例会にて嘉藤さんから、これらの映像を報告披露される予定になっているので、ご覧いただきたい。

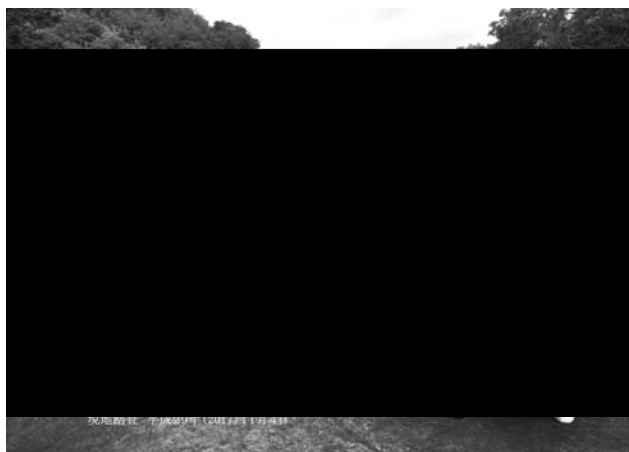


写真-4、今年の現地調査参加者

3-2、RCレーダー、シュミットハンマーなどによる調査

橋脚・橋台・橋梁上部工などの設計図が得られないので、今年も



写真-5、ドローンを迎える参加者

RC レーダーにより鉄筋の有無を調べ、シュミットハンマーによってコンクリートの強度測定を行った。



写真－6、RC レーダーによる調査



写真－7、シュミットハンマーによる計測

予想されていたとおり、おろち鳴き橋などアーチ構造の橋梁には鉄筋は入っていないようであったし、それらのコンクリートの強度は非常に高かった。

梯子やポール、巻き尺などを準備して寸法の計測も行った。

これらの詳細については、他のメンバーから報告されると思うので、ここでは割愛する。

3-3、その他の現地調査

地元の石本さんと一緒に、雑木などにより阻まれて遠くからは見る事が出来なかったトンネルが、周辺の立木伐採がなされて、よく見えるようになったところへ行ったり、今福駅予定地にも行くことができた。

今までの現地調査ではわからなかった今福駅周辺の新旧線の交差を石本さんから聞くことができたり、新しい発見もあった。既に何度も来てよく知っているはずの今福線であったが、我々の知らないことはまだまだ多いと実感した。今福線への興味は尽きない。

4、浜田市や他の団体との連携

浜田市と一緒に奈良県五條市の全国未成線サミットに参加したり、地元の石本さんと現地調査をしたことは既に述べた。

その他にも、NPO 法人 J-heritage (ジェイヘリテージ) や浜田市、島根県立大学、浜田商工会議所、沿線自治会まちづくり推進委員会などを含む今福線を活かす連絡協議会への参加など他団体との連携が進んでいる。

これについては、和田 浩さんからの報告に詳しいと思われるので、ここでは割愛する。

5、郷土誌「郷土石見」への論文掲載 2 回目

石見地方唯一の郷土誌「郷土石見」の 103 号 (2017 年 1 月刊) に『石見の

遺構「今福線」を探る（1）（執筆者；嘉藤太史さん）』が掲載されたことは、今年
の島根県技術士会新年例会で報告した
とおりである。

そして今回、同郷土誌の106号（2018
年1月刊）に『石見の遺構「今福線」を
探る（2）（執筆者；河野靖彦さん）』が
掲載された。

11ページに渡り今福線を詳述した論
文であり、技術者でなければ語ることの
できない読み応えのある資料になっている。

前にも触れたようにこの郷土誌は石見
地方のほとんどの図書館には、バックナ
ンバーが揃えられているものなので、歴
史資料として広く永く読み継がれると思
われる。

今後も今福線研究分科会のメンバーか
ら執筆者を変えて、視点の異なる記事を連載することになっている。



写真－8、郷土誌「郷土石見」表紙

6、浜田高等学校放送部制作の動画

今年10月には、島根県立浜田高等学校の放送部が今福線を題材として制作
されたPR動画「今福線でロケハンを」が、第41回全国高等学校総合文化祭
のビデオメッセージ部門で審査員特別賞を受賞された。

同作品は、下記のURLでYouTubeにアップされているので、いつでも見る
ことができる。

浜田高校放送部制作「今福線でロケハンを」

YouTubeのURL <https://youtu.be/zAyaB0fVJ08>

我々の活動と直接の連携があって制作されたものではないが、我々の永い活
動や他団体との連携に触発されたであろうことは、容易に推定できる。また今
福線研究分科会のメンバーの中には浜田高校出身者が数人いることもでもあ
り、当高校放送部へ何らかの協力連携をしたいと考え、申し入れているところ
である。

7、おわりに

今年一年だけの研究分科会の活動をまとめてみたが、実に多方面に渡る展開
を見せて来たと思う。来年度以降もさらに新しい展開が待っていそうである。
会員や連携他団体の意気も盛んなので、これからも大いに期待できる。

以上。